

地元企業の課題解決を



室工大 北海道産業論スタート

室蘭工業大学(空閑良壽学長)の3年生対象の「北海道産業論」が6日、開講した。地場企業の課題解決に学生が知恵を出し合つ初の試みの講座で、地元9社が協力。初回はガイダンスが行われ、企業担当者が学生に考えてもらう課題を提案した。

(栗島暁浩)

文科省の地方創生の地方(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)の一環。同講座は8月まで8回の講義を予定し、企業の提示した課題に学生が知恵を絞り、改良を加え発表しながら最終案をまとめる。初回のこの日は学生が環境、機械電機、情報通信の3グループに分かれて受講。環境は約100人の学生が、3社の担当者から会社の概要などの説明を受けた。ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス(ZEH)ビルダー登録を受けるなど、高性能でエコな住宅づくりを手掛ける住まいのウチイケは、自由な発想で自給自

企業9社が協力して
トした室工大の北海道産業論

足する家づくり・住まいづくりの提案を呼び掛けた。総合エンジニアリング事業の栗林機工は、設計部の金澤俊浩部長が、室蘭市崎守埠頭のガントリークレーンの設置や、室蘭バイオマス発電所のベルトコンベヤーの製作、設置など手掛けている事業概要を説明。学生には人材不足の課題解決について「参考になる意見を頂きたい」と伝えた。北海道曹達は、化学系企業の同社が道内で貢献できる事例と、天然高分子「キチング・キトサン」の新しい用途の提案を求めていた。